

環境学習会 「ハッチョウトンボをさがそう！」

長久手湿地保全の会と共催で環境学習会を開催しました。今回は、初夏にしか見ることができない日本で最も小形のトンボであるハッチョウトンボを探しました。



日時:令和 8 年 6 月 14 日(日曜日)14時00分～16時00分

場所:二ノ池湿地群

参加人数:17 人 天気:くもり

湿地を守るための約束

会に先立ち、湿地の環境を守るための「3つの約束」を説明しました。

① 持ち込まない

他の場所から種や生き物を持ってきて放さないでください。

② 持ち出さない

湿地の植物や動物をとって湿地の外に持ち出さないでください。

③ 踏み荒らさない

痩せた土地に生きている湿地の植物はとても弱いので、踏み荒らさないでください。

二ノ池湿地群の現状

続いて、実際に湿地に入っていき、湿地保全の会から、次のように説明がありました。

『二ノ池湿地群は、谷間や斜面に成立する小規模な湧水湿地で、貧栄養な湿原で狭い面積であること、この地方固有の植物や昆虫が多く見られるといった特徴があります。

湿地は、これまでは、土砂崩れなどにより土壌が剥ぎ取られ、新たな湿地が生まれることで湿地の植物たちが生き残ってきました。

しかし現在、開発などの影響で湿地全体の数が減り、新たな湿地も生まれにくい状況であるため、その環境と動植物を守り育てていく必要があります。』

現地では、トウカイコモウセンゴケ、モウセンゴケなど、湿地固有の植物が見られました。

ハッチョウトンボを探そう！

ハッチョウトンボは、世界でも最小のトンボの一種。日本では最も小さく、頭の先から尾の先まで約 2cmしかありません。当日は、湿地保全の会を先頭に、多くのハッチョウトンボが見つかりました。

次に、苦労したのが、写真撮影。スマートフォンを向けるもすぐに動くし、小さくピントも合わず、苦労していました。(筆者も撮影しましたが、あとで見返すとピントが合っていないものばかりでがっかり...)

ハッチョウトンボだけでなく、希少な動植物を一般の参加者と保全の会で、談笑しながら観察をしました。

参加者のコメント(一部抜粋)

- ・ うっかり見逃しそうな植物や虫、カエルなど見つけられてとても楽しかったです。でも、手入れしないとあっけなく絶滅してしまうので、自然は優しくて難しいと思いました。
- ・ 広大な湿地と保全いただいている皆様の活動に改めて敬意を表したいと思います。



湿地の動植物を観察



ハッチョウトンボを捜索中



別日に撮影したハッチョウトンボ(湿地保全の会提供)

左がオス、右がメス



モウセンゴケ(左)とトウカイコモウセンゴケ(右)
モウセンゴケの方がより水気があるところを好む